

算数科

における深い学びに到達した児童像

- ◇問題解決に必要な情報をさまざまなデータから見極めて自分の考えを整理する。
- ◇自分の考えと友だちの考えを比較、統合しながら自分の考えを再構築することができる。
- ◇整理した考えとこれまでの学びを活用することができる。
- ◇新たな疑問や課題をもったり、自分の力に合った問題を選択したりすることができる。

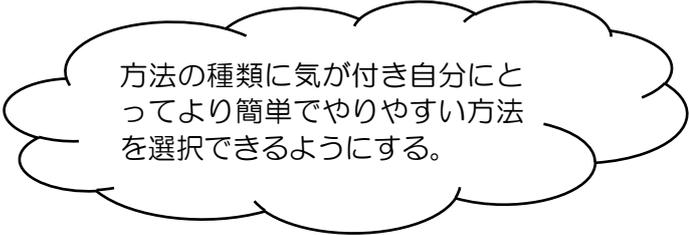
児童像の実現のために効果的だった手だて

【学びの自律化・個別最適化】

- ◇ 見通しをもたせる

算数科における見通し

- ・解の見通し
- ・方法の見通し



方法の種類に気が付き自分にとってより簡単でやりやすい方法を選択できるようにする。

【学びの自律化】

- ◇ 解き方の選択

自分自身で解き方を選択し、考察することで出た結果に対する根拠を明確にすることができる。

【個別最適化】

- ◇ 自力解決の時間の確保

一斉指導だけでは見取れない児童を把握し、個別最適化の支援につなげることができる。

1時間の中で練習問題まで取り組む

練習問題まで確実に行うことで子ども自身のできた！という満足感につなげることができる。また練り上げの中で学んだ数種類の解き方の中からより良い方法に気が付き、自分で選択して問題を解くことができる。

【その他】

- ◇ 反復

10のまとまりを意識することやブロックを動かすことを、繰り返し行うことで、基礎基本を身につけることができる。

- ◇ タブレットの効果的な活用

教師の見取りや子どもたちが互いに考えを交流することができる。また、自力解決の際にも、ノートだけでなくタブレットを活用するなど、学年があがるごとにツールの選択もできるようになる。

実践の成果(○)と課題(▲)

○タブレットを活用したことで、一人ひとりの考えや進捗状況について、教師が児童の実態を正確に把握することができ、適切な机間指導を行うなど、個別最適な学びにつなげることができた。

○タブレットがあることにより、これまで練り上げにかかっていた時間が削減され、自力解決の時間や練習問題の時間を多く確保できた。

▲算数の学習における自立化は学年によって難しい。

▲タブレットを使うことに重きを置くのではなく、本時で何を身に着けたいかを明確にした上で、効果的な活用をする必要があるのでこれまで以上に授業者がより深く学習内容を理解することが大切。